

気候ネットワーク 御中

「ヒートポンプ性能表示についての再質問」に関する件

謹啓

清秋の候、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

先般、送付頂きましたご質問に関しまして当社見解を下記の通り回答いたします。

謹白

－ 記 －

(当社見解)

エアコンの性能はJIS規格に基づき試験を行い、表示しております。

エアコンは、環境負荷やお客様の設定によって圧縮機の回転数や風量をコントロールし、より最適な運転を行います。性能測定時、JISで定められた測定ポイントでは、再現性を持たせた一定の条件で測定する必要があるため、圧縮機の回転数や風量を固定して測定しております。

過去には一部の製品にて、性能測定時にJIS規格の範囲内(*1)で風量を変化させていた例もございましたが、一部報道にあるような隠しスイッチ等での設定ではなく、お客様が使用する環境でも出現する仕様であり、カタログ値から逸脱するような性能の過大表示等は一切ございません。ただ、性能評価・表示に関して消費者の誤解を招きかねない面があったことは、当社としても真摯に受け止めております。

(*1)運転音は、カタログ等の表示値に対してばらつき含めJISで認められた公差の±3dB以内

使用実態を考慮した性能評価指標のAPF(通年エネルギー消費効率)は、より負荷の少ない中間性能を重視した指標であります。過去一部行っていた風量変化は、定格性能を測定するポイントのみですので、APF(=期間消費電力量)で見たときには、最大の物でも風量変化による差は、1～2%程度であり、省エネルギーの区分への影響やカタログ値から逸脱するような事実はございません。

また、ご質問にあります該当機種の数等については、当社では、従来から販売実績等の公表はしておりません。2008年以降は、性能測定時に風量を変化させることも行っておりませんし、そのような製品は製造も販売も行っておりません。

JIS規格については、使用実態との整合性、国際整合性等を考慮した改正を始めようとしている所でございます。工業会を通じてよく議論し、より納得性のある規格となるよう努めていく所存です。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ダイキン工業株式会社
常務執行役員 岡田 慎也